

令和3年4月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,497	8,722	4,416	4,306	△ 33	△ 54
2 千 石	4,045	6,723	3,398	3,325	△ 29	△ 65
3 内 山	5,831	7,953	4,212	3,741	23	5
4 大 和	3,440	6,618	3,264	3,354	△ 40	△ 119
5 上 野	7,371	15,410	7,609	7,801	△ 67	△ 128
6 高 見	7,415	13,345	6,359	6,986	△ 28	△ 65
7 春 岡	7,099	11,125	5,788	5,337	59	45
8 田 代	11,540	21,806	10,522	11,284	0	△ 98
9 東 山	10,451	19,311	9,532	9,779	△ 5	△ 118
10 見 付	4,373	8,090	4,101	3,989	△ 20	△ 56
11 星 ケ 丘	3,554	6,869	3,111	3,758	△ 12	△ 79
12 自 由 ケ 丘	3,571	7,180	3,277	3,903	11	△ 8
13 富 士 見 台	6,509	15,277	7,063	8,214	6	△ 14
14 宮 根	3,886	8,138	3,856	4,282	△ 2	△ 21
15 千 代 田 橋	3,748	8,426	3,952	4,474	4	△ 20
千 種 区 計	88,330	164,993	80,460	84,533	△ 133	△ 795
R2.4.1	87,728	165,283	80,656	84,627	△ 72	△ 687
対 前 年 比	602	△ 290	△ 196	△ 94	△ 61	△ 108
名 古 屋 市	1,131,556	2,320,719	1,144,420	1,176,299	2,082	△ 4,341
愛 知 県 (R2.3.1)	3,273,817	7,530,983	3,765,064	3,765,919	△ 67	△ 4,283

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	91	138	△ 47	2,332	3,080	△ 748

【参考】	国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
	昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
	昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
	平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
	平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

令和元年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向を考える上で重要な人口増減の内訳を見ていきたいと思います。

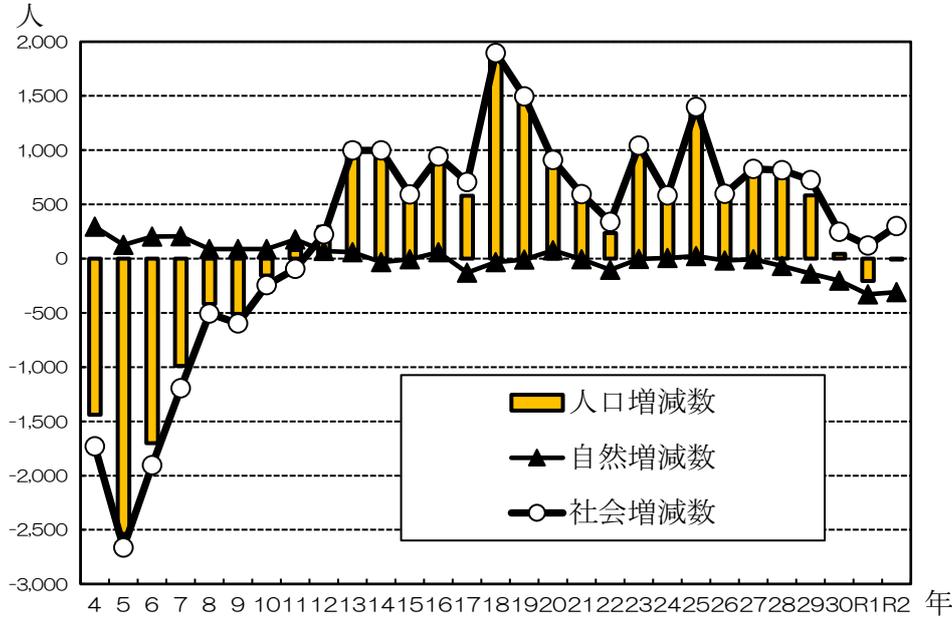


図 1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移 (各年前年 10 月～当年 9 月)

令和 2 年 10 月現在の千種区の人口数は、前年同月比 10 人減少の 165,853 人となっており、名古屋市 16 区のうち 4 番目の人口規模です。図 1 の人口増減数を見てみると、千種区の人口は平成 11 年から平成 30 年まで増加しています。社会増減数（転入数－転出数）は、平成 8 年度以降人口増減数の変化にほぼ対応して変化しています。一方、自然増減数（出生数－死亡数）は年々減少しており、ここ 3 年は 200 人以上減少しています。千種区の人口増減数の変化は社会増減数の変化に大きく依存していると考えられます。そこで、社会増減数およびこれを左右する転入数・転出数について見ていきます。

令和元年 10 月から令和 2 年 9 月までの千種区の社会増減数は 300 人の増加となっており（図 2）、名古屋市 16 区の中で 10 番目となっています。自然増減数は前年比で 310 人減少しています。また、社会増減数は平成 12 年以降転入超過を維持しています。

また、人口移動数（転入数＋転出数）は 26,364 人で、中区に次いで 16 区中 2 番目となっています。

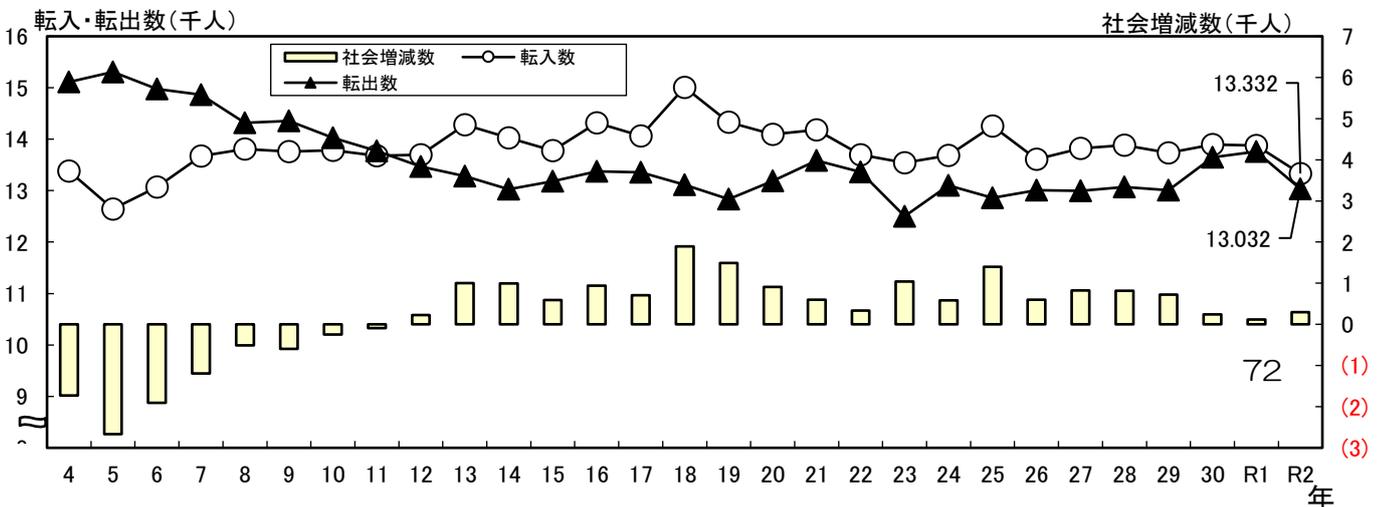


図 2: 千種区の平成元年以降の社会増減数、転入数および転出数の推移 (各年前年 10 月～当年 9 月)